

# 令和4年度

事業報告



社会福祉法人 横浜市社会事業協会

【施設概要】

No	名称	種別	所在地
1	法人本部・アテイン	法人本部 就労継続支援 A型	泉区中田東 3-15-2 中田町センタービル 202・201
2	グループホームアンダール	共同生活援助	保土ヶ谷区常盤台 64-18
3	よこはまりバーサイド泉 ※よこはまりバーサイド泉わかば	障害者支援施設 ※放課後等デイ	泉区下飯田町 355
4	よこはまりバーサイド泉相談支援	相談支援	泉区下飯田町 355
5	よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨	生活介護	泉区下飯田町 1374-2
6	よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり	生活介護	泉区下飯田町 811-6
7	居宅サポート・リバーサイド泉	居宅介護	泉区和泉中央北 6-3-13
8	グループホームゆい	共同生活援助	泉区泉中央北 6-26-8
9	グループホームサンライズ	共同生活援助	泉区和泉町 1197-1
10	横浜市中央浩生館	更生施設	南区中村町 3-211
11	インカル	就労継続支援 B型	中区翁町 1-3-9 タムラビル 2 階
12	グループホームすてら縁	共同生活援助	南区真金町 1-6-55 阪東橋ステラ
13	うるおい南	就労継続支援 B型	南区睦町 1-25
14	横浜市大岡地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	南区大岡 1-14-1
15	横浜市簗沢地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	中区簗沢 13-204
16	横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	保土ヶ谷区川辺町 5-11
17	横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	鶴見区豊岡町 28-4 ハーモニーとよおか 4 階
18	CaféTurtle	就労継続支援 B型	神奈川区神之木町 88-1
19	横浜市多機能型拠点こまち ※なごみクリニック	横浜市多機能型拠点 ※診療所	瀬谷区二ツ橋町 489-45
20	左近山特別支援学校内放課後等デイサービスたんぽぽ	放課後等デイサービス	横浜市旭区左近山 1011

(名称の網掛けは、指定管理施設)

## 《経営理念》

夢と希望のもてる誰もが住みやすい社会との架け橋を築く

## 《基本理念》

- 1 人々に共感と信頼の得られる社会福祉事業を行うことにより、人々の安心した暮らしの実現を支援します。
- 2 地域の関係機関と連携しながら、地域における福祉の環境づくりに貢献します。
- 3 堅実かつ効率的な経営に務め、サービスの質の向上と安定的な提供を確保します。

# 法人本部・アテイン

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 法人本部	
(ア) 職員一人ひとりが働きやすい職場環境の構築	
① 職員の心身のリフレッシュの機会を増やすため夏季休暇制度を新設、令和4年度より運用を開始した。 ※付与日数 3日間(週所定労働日が5日の職員の場合)	
② 職員の永年勤続者を対象としたリフレッシュ休暇制度を新設、令和4年度より運用を開始した。 ※付与日数 20日間(勤続30年の場合)	
③ 育児・介護休業法改正に基づき、出生時育児休業制度(産後パパ育休)を導入、令和4年10月より運用を開始した。	
(イ) 法人本部の機能強化	
① 本部事務局の経理部門を拡充し、事業所で分散実施している経理業務を集約するため、令和4年度はよこはまりバーサイド泉、横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センターの経理事務を本部事務局に移管した。	
② 本部事務局の事務所の移転・増床は見送ったが、一部テレワークによる交代勤務を導入し、限られた事務スペースを効率的に使用できる環境を整えた。	
(ウ) ガバナンスの強化	
① 公益通報者保護法改正に基づき、内部通報制度を導入した。制度に基づく通報が3件、相談が1件寄せられた。	
② 昨年度に組織したプロジェクトチームの提言に基づき、行動指針・倫理綱領の改定を行った。	
(エ) 職員採用・定着支援の強化	
① 職員採用では、目標の12人を大きく上回る27人の新卒者の採用に至った。特に、今年度より本格的に取り組んだ高卒採用は、3人の新卒者を採用することができた。	
② 社会福祉士等養成校からの実習生受け入れを積極的に行った結果、受け入れた実習生のうち2人が採用に結びついた。	
③ 新卒の新採用職員に対しては、定期的な面接及び2か月に一度の集合研修を実施、きめ細やかな定着支援を行った。	
(オ) 健康経営の推進	
① 昨年度に引き続き、よこはまウォーキングポイントに事業所単位で参加し、	

歩くことによる健康づくりを奨励した。

- ② 昨年に引き続き EAP 事業者と契約、法人外相談窓口を確保するとともに、月 1 回の「こころの通信」を発行し、心の健康づくりについて職員のサポートを行った。  
※EAP (Employee Assistance Program/従業員援助プログラム)
- ③ 職員の健康課題の把握を行うとともに、健康課題に即した取り組みを行い、職員の健康をフォローした。その結果、令和 4 年度横浜市健康経営認証 AAA を取得した(2 年間有効)。
- ④ 令和 1 年度に開始したクラブ活動の支援制度の利用促進を行い、公私の充実を支援した。令和 4 年度は、駅伝部メンバーが FM ヨコハママラソンに出場した。

(力) 法人内部での情報アクセス・情報発信の強化

諸手続きの方法や、福利厚生制度等見える化するための FAQ を適宜更新した。

(キ) 災害への備えの強化

神奈川県と協定に基づき、神奈川 DWAT(災害派遣福祉チーム)への登録研修に職員を派遣し、災害支援に関するノウハウの蓄積を行った。

2. IT 推進室

(ア) 勤怠管理システムの導入

全事業所にて統一した勤怠管理システムの運用を開始したことにより、時間外勤務、年次有給休暇取得状況見える化し、勤怠管理の適正化を図った。

3. アテイン

(ア) 業務範囲の拡大による受注商品の拡大

印刷業務においては、新たに断裁機を導入した結果、作業時間の短縮と受注増に繋がった。それに伴い、新規受注も積極的に受けた結果、年間約 35 万円(15 件)の新規受注に繋がった。

(イ) コロナ禍の環境下を踏まえた、業務の見直し

- ① 印刷業務においては、作業手順を可視化し共有する事で、納期の調整なく納品できる体制を整えた。
- ② 清掃作業においては、個々の担当作業分担を見直し、ご利用者の欠席の状況でも業務を遂行できる体制を整えた。

2. 稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
アテイン(定員 10 人)	9.5 人	8.1 人	9.5 人	8.3 人

# グループホームアンダール

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況				
1. 常盤台・中里台				
(ア) 居住環境の整備				
中里台で給湯器の点検や冷蔵庫及び洗濯機、電子レンジといった家電製品の故障による入れ替えを実施した。				
(イ) 研修機能の強化				
① 権利擁護の正しい知識を習得するため、動画配信型の成年後見制度利用促進研修を受講した。				
② 職員の資質向上を目的に、障害者支援センター主催「障害福祉入門研修」、神奈川県精神保健福祉士協会主催「新人研修」等、関係団体主催の外部研修に参加した。				
③ 障害者虐待防止をテーマに、内部研修を実施した。				
(ウ) Crane 神之木との連携の強化				
法人内の GH 連携ミーティングに Crane 神之木職員と共に定期的に参加し、事例検討等を行った。				
2. Crane 神之木				
(ア) ご利用者一人ひとりの進路の確認				
個別支援計画や日々の面談で、今後の目標や進路について話し合いを行った。				
(イ) 定期交流機会の強化				
① コロナ禍ではあったが、毎月 1 回お話し会やお散歩イベントを実施した。				
② 地域での行事(第一回大口パン祭り)に、ご利用者と参加することや、関係機関と連携し当事者を含めた交流会も実施した。				
(ウ) 職員及びパート職員の資質向上、人材育成を行い、サポート力を強化する				
パート職員の資質の向上のため、報連相を徹底し、意見を交換しながら支援体制の強化を図った。				

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
アンダール常盤台(定員 6 人)	5.8 人	6.0 人	6.0 人	5.7 人
アンダール中里台(定員 7 人)	6.8 人	7.0 人	7.0 人	7.0 人
CRANE 神之木(定員 10 人)	10 人	9.8 人	10.0 人	9.8 人

# よこはまりバーサイド泉

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況
<p>1. ご利用者の健康リスクを把握、健康管理に努めるとともにし、コロナ等感染症の発生や、拡大予防のため基本対策「持ち込まない」「増やさない」「広げない」を徹底する。</p> <p>(ア) ご利用者の状態変化について、入所支援課の生活支援員からの情報だけでなく、ケース記録からも情報を収集し、健康管理係内で共有することで、ご利用者の状態変化に早期に対応することができた。この結果、生活支援員への相談や積極的なカンファレンスの実施等が行われ、必要な対応が適切に行われた。</p> <p>(イ) 新型コロナ感染症対策として、各居住棟の入り口にカーテンを設置し、BCP、感染対策マニュアルの作成、基本的な感染症対策(換気、手洗い、マスクやフェイスシールドの着用等)を徹底して実施した。しかし、7月27日から8月16日までの期間で、新型コロナ感染症のクラスターが発生し、短期入所、生活介護(デイサービス)、放課後等デイサービス等各事業を一時停止することになった(事業再開は8月22日)。職員は一丸となり、クラスター拡大を防止するために全力を尽くし、早期の収束に繋がった。クラスター発生時の反省を生かし、BCPおよび感染症マニュアルをより実践的な内容に改定し、職員の教育にも力を入れた。さらに、必要な感染予防物品の数を明確に把握できたため、それに基づいた適切な物品管理を開始した。</p> <p>2. 様々な視点から利用者支援の見直しを行い、均質化を図ることにより、限られたマンパワーを有効活用し施設サービスの向上を目指す。</p> <p>(ア) 支援方法の見直しとして、職員育成マニュアル、オムツ使用法のマニュアル等の整備は行ったが、業務全般のマニュアルの整備には至らなかった。今後の課題として整備を継続する。</p> <p>(イ) デイサービスで同性介護の緩和(女性職員による男性ご利用者への介護)を進め、1月から男性ご利用者3人に異性介護を開始した。トイレ待ちが解消され、サービスの質の向上に繋がった。</p> <p>(ウ) 日中活動と個別支援計画の関係について見直しを図り、担当間の連携を強化した。実際の活動については、年度後半に感染対策を実施しながら、入所ご利用者全員が楽しめる企画を4回(花火、お祭り、クリスマス、正月)実施した。ただし、講座については、クラスター発生により再開を見送った。</p> <p>(エ) 各居室の環境整備として、洗面棚の全面的な更新、居室内7台のベッドの入れ替えを実施した。居住棟内のエアコンはクラスターの影響で3台の交換にとどまった。環境全般については、安全衛生委員会による巡回指摘事項について都度改善を行い、職員の意識定着も確実に進んだ。</p>

3. 職場環境をハード、ソフト両面から見直し、やりがいを感じながら働ける場として、離職の削減、安定したサービスの提供、安心・安全な施設づくりを目指す。
- (ア) 職員の欠員が続いたため、全職員に対するアンケート調査を行ったが、全体的な検討チームの設置には至らなかった。
- (イ) 地域支援課では、職員同士がお互いを認め合える仕組み作りとして、「ありがとうチャット」の試験運用を6月から開始した。チャット内でのやり取りに加え、対面でのコミュニケーションも増え、チームワークの向上に繋がった。
- (ウ) 会議室や休憩室の活用については、検討チームが未設置のため、全体での検討が行えず、未着手となつた。
- (エ) 天井走行リフトを春棟と冬棟の板の間トイレ2か所に設置し、12月より運用を開始した。
- (オ) 入所支援課では、職員欠員のために夏季休暇を期間内で取得できず、6月から11月までの期間に分散して取得することとなつた。一方、地域支援課、健康管理係、総務係では期間内に休暇を取得できた。
- (カ) 令和3年度より開始した、法人内事業所の支援「光梨のノーリフト推進に向けた職員派遣」は、今年度も継続実施した。今年度は、光梨職員の意識改善を目的とした、ノーリフトケアプロジェクト(光梨)を立ち上げ、リスクアセスメントや研修を実施した。また、床走行リフトの選定が完了し、次年度の購入に向けて準備を進めた。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3年度		R4年度	
	目標値	実績	目標値	実績
入所(定員60人)	58人	58.9人	58人	57.6人
生活介護(定員20人)	19人	17.8人	19人	16.7人
短期入所(定員6人)	4.5人	2.7人	4.5人	2.3人
放課後等デイサービス(定員5人)	4.5人	4.4人	4.5人	3.8人

# よこはまりバーサイド泉相談支援事業所

## 1.事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. ご利用者に提供する相談支援業務の質の向上	相談事業に関連する研修や自立支援協議会に積極的に参加し、事業所定例会議にて事例検討を行うなどにより、相談員の質の向上を図った。行動障害支援体制加算の要件に該当する研修については、基礎研修に続く応用研修が、応募過多により受講できなかつたため、令和5年度に受講を予定する。
2. 職員の定着と事業所の安定的な経営	職場内での情報共有や現場OJTにより、各職員が不安なく従事できるよう体制を作った。職員の退職、異動によるサービス報酬・加算の変更、物価高騰対策支援金等補助金の申請等を漏れなく行い、収入の確保に努めた。また、ご利用者の支援の必要性を見極めモニタリングの回数を調整することで、制度移行等で減少した分の収入補填に努めた。

## 2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)				
	R3年度		R4年度		
	目標値	稼働数	目標値	稼働数	
計画相談	契約者数	330人	319人	330人	300人
	毎月のモニタリング件数	120件	99件	120件	101件

※計画相談契約者数は令和5年3月31日現在の数字です。

# よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1.	ご利用者に選んでもらえる事業所作りを目指し、利用率の向上と新規ご利用者の獲得に取り組む。 (ア) 利用率の低下は令和4年5月より始まり、令和5年1月に15.57人まで減った。しかし、2月より少しずつ増え、3月はほぼ横ばい状態であった。 (イ) ご利用者数減の理由としては、ご利用者の他サービス(短期入所)の利用増、コロナ感染症による自粛が主な要因であった。
2.	働きやすい職場環境を整え、職員の定着率、チーム力の向上を図っていく。 令和4年度上半期に、常勤職員3人が退職したことに加えて、体調不良の職員も出了。その一方、働きやすい職場環境にするために、よこはまりバーサイド泉からの支援を受けて、ノーリフトケアプロジェクトを立ち上げ、リスクアセスメントや研修を実施した。また、床走行リフトの選定が完了し、次年度の購入に向けて準備を進めた。
3.	泉Ⅱ・泉Ⅲ相互による組織のバックアップ体制を取り、経営の安定と効率化を図っていく。(泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目) (ア) 両事業所の医療職が、相互にフォローする体制を整えた結果、安定的なサービス提供に繋がった。ただし、令和5年1月～2月については、泉Ⅲからのサポートが難しく、看護師派遣サービスを利用した。 (イ) 事務担当を泉Ⅲと兼務させ、作業を共通にすることにより、業務の効率化に繋げた。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3年度		R4年度	
	目標値	実績	目標値	実績
生活介護(定員20人)	20.0人	18.5人	19.4人	16.9人

## よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり

### 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況				
1.	ご利用者に選んでもらえる事業所作りを目指し、利用率の向上と新規ご利用者の獲得に取り組む。			
	家族や外部へ事業所の広報誌やブログの発信を定期的に行う事で、事業所の様子や取り組みを知って頂く機会に繋がり、新規ご利用者獲得が出来て利用率向上に繋げる事ができた。			
2.	人材育成と職員の定着率向上に取り組む。			
	(ア) 新人職員の育成に向けて、職員間での考え方の違いを改めて話し合いをしながら修正した結果、新人職員が混乱をせずに業務を行えるようになった。			
	(イ) 厨房職員については、業務の見直しを行った結果、業務を習得しやすい環境になり、職員定着に繋げる事ができた。			
	(ウ) 職員同士のコミュニケーションを日々行い、情報共有や相談等をしやすい環境を整えた。			
	(エ) 泉Ⅲ職員全体で、課題への挑戦や新たな取り組みの機会を設けた結果、職員の向上心が高まった。			
3.	泉Ⅲ・泉Ⅱ相互による組織のバックアップ体制により経営の安定化を図っていく。			
	(泉Ⅲ・泉Ⅱ共通)			
	(ア) 両事業所の医療職が、相互にフォローする体制を整えた結果、安定的なサービス提供に繋がった。			
	(イ) 事務担当を泉Ⅱと兼務させ、作業を共通にすることにより、業務の効率化に繋げた。			

### 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
生活介護(定員 20 人)	18.6 人	15.6 人	17.0 人	16.6 人
児童(定員 5 人)	5.0 人	4.6 人	4.8 人	4.3 人

# 居宅サポート・リバーサイド泉

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
<p>1. 引き続き感染症対策徹底し、ご利用者の意向に沿った安全なサービス提供を行うとともに、関係機関との連携によりご利用者の安定した生活と自立に寄与する。</p> <p>(ア) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外出を自粛し在宅されるご利用者のご意向に沿ったサービス提供を行った。また、感染発生時の対応フローを策定し対応を統一した。</p> <p>(イ) 関係機関と連携し、新規ご利用者3人へのサービス提供を開始した。また、ご利用者のADLや生活の変化に合わせて派遣内容や介助方法を再検討することで安心、安全な介護を提供した。</p> <p>(ウ) 地域のご利用者のニーズに応えるため新たに職員3人が同行援護研修を修了し、サービスの提供を行った。</p>	

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3年度		R4年度	
	目標値	実績	目標値	実績
(障害)居宅介護	54時間	54.5時間	51時間	51.3時間
(障害)移動支援・同行援護	20時間	21.9時間	21時間	20時間
(介護保険)訪問介護	4.1時間	4.7時間	4.3時間	4.4時間

# グループホームゆい

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
<p>1. 引き続き感染症対策を図ると共に、ご利用者の安全管理と健康管理を行い、自立生活ための支援を行う。</p> <p>(ア) 感染発生時の対応マニュアルを新たに作成し、ご利用者への対応を統一するとともに、関係機関との連携を円滑に行えるようにした。</p> <p>(イ) 全ホームに日中支援スタッフを配置し、ご利用者の生活に合わせたサービスを提供した。また、支援マニュアルを作成し対応を統一した。</p> <p>(ウ) 老朽化していた天井走行リフト 4 台を交換し、安心してご利用いただける環境を整備した。</p>	

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
共同生活援助ゆい(定員 32 人)	29 人	29.2 人	30.2 人	28.0 人

# グループホームサンライズ

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
<p>1. 引き続き感染症対策徹底し、ご利用者の意向に沿った安全なサービス提供を行うとともに、関係機関との連携によりご利用者の安定した生活と自立に寄与する。</p> <p>(ア) 感染発生時の対応マニュアルを新たに作成し、ご利用者への対応を統一するとともに関係機関との連携を円滑に行えるようにした。</p> <p>(イ) ホームでの生活を希望する、身体合併症をお持ちのご利用者の意思を尊重した支援を行った。定期的な受診同行や関係機関との調整を行うことで、希望する生活を継続できるようにした。</p> <p>(ウ) 服薬管理を必要とするご利用者へ、訪問薬剤管理指導を導入した。誤薬や飲み忘れを防止し、安心して生活を送れるよう支援を充実させた。</p>	

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3年度		R4年度	
	目標値	実績	目標値	実績
共同生活援助サンライズ(定員 16 人)	15.5 人	15.6 人	15.5 人	15.2 人

# 横浜市中央浩生館

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1.	個人の尊厳を重んじ、それぞれに応じた円滑な地域移行と安定した生活に向けて積極的な支援を行う。 (ア) クラスターの発生はなかったが、施設内での新型コロナ感染が散発的に続き、活動に制約を受けながらも、地域移行支援や、就労支援には引き続き積極的に取り組み、入所目的を達成し、退所に至るご利用者は例年並みを維持することができた。一方、入所依頼が引き続き低調で、入所者数の減少が続く結果となった。 (イ) 更生施設全体の傾向から、今後入所者数の大幅な増加は困難と判断した。そのため、事務費単価の改善を目的に、令和5年4月1日から利用定員を68人から60人に変更する手続きを行った。 (ウ) 通所・訪問事業については、計29人と比較的良好な状況が継続した。
2.	安心安全な生活環境を提供する。 (ア) 建物設備の老朽化については、こまめに点検・早期対応を行い、大きな支障や事故は発生せず、安全な生活環境は維持できた。 (イ) ご利用者のADL低下や、心身両面で細やかな支援が必要な方の入所が増える傾向にあり、居室等の環境の維持と、一部個室(少人数)化等の対応を始めた。今後も、事故防止のためのバリアフリー化等も進めていく必要性が高まっている。
3.	施設の特性や強みを生かして地域に貢献する。 (ア) 高齢者定期訪問事業の対象となっていた市営住宅入居者が、建て替えに伴い転出し、新型コロナの影響で希望者も減少し、継続が困難な状況となった。 (イ) 地域行事も引き続き中止となり、公園清掃を除いて定期的な活動は低調であった。
4.	新型コロナ感染流行を端緒としたご利用者の急減に対し、ご利用者増を図って行く各区への訪問や直接的活動も限られる中、全区の生活支援課の会議での広報や資料配布等を行ったが、一時は入所者が35人まで減少した。しかし、感染が落ち着いてきた年度後半からは、区役所や病院や、関係機関への個別的な働きかけを、グループの他事業所の協力も得て職場全体で強化した結果、年度末から入所が退所を上回るようになり、3月末時点で42人まで回復した。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
入所(定員 68 人)横浜市中央浩生館	68 人	46.7 人	62 人	36.8 人
通所(定員 29 人)横浜市中央浩生館	22 人	22.7 人	29 人	24.1 人
訪問(定員 5 人)横浜市中央浩生館	10 人	3.4 人	5 人	4.1 人

# インカル

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況			
1. ご利用者に対して一人ひとりの尊厳を守り、個人の自主性とプライバシーを尊重して社会的自立を目指しサービスを提供する。			
(ア) ご利用者の就労支援の取り組みとして、新規企業の開拓や企業連携の強化に取り組んだ結果、就労移行支援事業より 2 人、就労継続支援 B 型事業より 3 人が企業就労した。これにより、関係機関からの問い合わせも増え、安定した運営を行うことができた。			
(イ) 企業との良好な関係の維持に加え、中央浩生館や地域他施設との協力、教育委員会からの学校清掃業務の請負などに引き続き積極的に取り組み、ご利用者の平均工賃は、月額 21,000 円以上の水準を維持できており、通所者のモチベーション維持にもなった。			
2. ご利用者が健康で豊かな生活が送れるように、ご利用者主体の施設運営を行う。			
(ア) 前年度に引き続き、欠席の続くご利用者には、一人ひとりと連絡を絶やさず、生活状況や悩みなどを聞き、関係機関とも協力しながら、共に解決に努めることにより 8 割近い利用率を維持することができた。			
(イ) 行事については、新型コロナの影響が続いたため、外部行事は制約を受けたが、施設間のサッカー大会等にはできる限り参加した。また、内部行事は概ね前年度並みに実施した。			
3. 地域に根ざし、社会に開かれた施設として、積極的に地域福祉の推進に取り組み、地域社会に貢献する。			
コロナ禍が継続する中で制約は続いたが、これまでに作り上げてきた地域交流を深めるために関係機関交流会を 3 ヶ月に 1 度実施し、地域清掃やイベントにも可能な限り参加し連携を深めることに努めた。また、引き続き寿地区の事業所連絡会の運営に参加した。			

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
インカル就労移行支援(定員 6 人)	5 人	3.4 人	5 人	2.1 人
インカル就労継続支援(定員 34 人)	28 人	26 人	30 人	26.9 人

# グループホーム すてら縁

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況			
1. ご利用者一人ひとりが希望の光を感じられるようなグループホームであり続ける。 関係機関とも協力しながら、ご利用者の生活状況に合わせたきめ細かい支援を世話人が中心となって行い、ご利用者の生活の安定を実現した。			
2. 個人の尊厳を重んじ、一人ひとりの夢の実現に向けた支援を行う。 前年度にホームを退居し単身生活へ移行した元ご利用者に対して、本人の希望から月1回状況確認の場を設け、安心して地域生活を送れるよう支援した。就労先とも連携を強化し、状況変動があった際は情報を共有して、支援につなげやすくした。			
3. 関係機関と連携しつつ、ご利用者の一番身近な相談者としてきめ細かい支援を行う。 ① コロナ禍の中で制約はあったが自治会の活動に可能な限り参加し、地域住民との交流を継続した。また、日々の生活の中で近隣住民への挨拶を積極的に行うようご利用者へ働きかけ、スタッフにも清掃等でホームの外にいる際には、挨拶を必ず行うことを徹底した。 ② 職員会議にオンライン方式を導入することにより、より多くの職員の参加ができるようにした。また、グループ内の障害福祉サービス3事業所(インカル・すてら縁・うるおい南)で合同の勉強会を定期的に行い、職員の資質向上に努めた。			

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
すてら縁(定員 10人)	10.0人	9.6人	10.0人	10.0人

# うるおい南

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況			
1. 個人の尊厳を大切にし、ご利用者一人ひとりの意思に寄り添った支援を提供する			
(ア) ご利用本人だけでなく家族とも、日常的に面談や連絡をこまめに行い、ご利用者の生活全体のサポートも行った。その結果、参加率は、平均 89.5% (平均利用実績 38.5 人／平均登録者数 43 人) と高い水準となった。			
(イ) 幅広いご利用者の受け入れに対応するため、関係機関や特別支援学校との関係を強化し、高等部卒業予定者にも十分な説明を行い、利用希望に繋げた。			
2. 安定した活動の確保とご利用者の適性に応じた作業提供により、無理のない環境下で工賃の向上を目指す			
(ア) ご利用者の安心感を維持するため、民営化以前の企業との関係を大切にしながらも、新たな企業や公共機関との関係づくりを行い、請負先を増やした。その結果、ご利用者に提供する作業内容が多くなり、ご利用者の特性に応じた作業提供を行うことができた。			
(イ) 企業との単価交渉も積極的に行うことにより、単価の改善も図った結果、ご利用者の作業工賃も平均 3 万円超を達成し、ご利用者のモチベーションの向上に寄与した。			
3. ご利用者の生活の質の向上のための、余暇活動を充実する			
感染防止対策を取りながら余暇活動を実施したが、その結果として制約も多く、余暇活動の充実までには至らなかった。			

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
うるおい南(定員 45 人)			40.0 人	38.5 人

# 横浜市大岡地域ケアプラザ

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1.	令和3年度から始まり令和7年度までの間、指定管理者として地域住民や関係機関と連携し、地域ケアプラザの運営を適切に進めていく。 (ア)新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、「マタニティヨガ」をオンライン講座で通年実施し、好評を得られた。大岡小学校や横浜国立大付属特別支援学校との交流は対面で実施したが、状況に応じて、オンライン交流に切り替えられるよう、検討を進めた。 (イ)認知症普及啓発事業について、地域の介護保険事業所に講師を依頼し、ボランティアカレッジとして、認知症の連続講座を実施した。その結果、企業やこれまでケアプラザと関わりのなかった方の参加につなげることができた。また、地域のボランティア団体向けの認知症サポーター養成講座及び、地域の金融機関の従業員向けの認知症講座を実施した。
2.	委託事業(地域包括支援センター・地域活動交流・生活支援体制整備)においては南区の地域福祉保健計画等に沿って事業を進めていく。 (ア)昨年度の地域ケア会議において出された意見をもとに、本大岡・井土ヶ谷両地区における地域活動の担い手をつなぐサロン連絡会を立ち上げ、実施した。 (イ)出張相談の場を活用し、民生委員との情報・意見交換や、外部講師による住まいに関する講座、URとの合同相談会、成年後見制度のDVD上映等を実施した。また、協力医による地域住民向けの健康講座、健康サロンも開催した。 (ウ)大岡健康プラザ3館合同企画として、「フードドライブ」「Xmas企画」を実施した。
3.	介護保険事業(通所介護・居宅介護支援)における安定的な収入を確保する。 (ア)通所介護事業においては職員の新型コロナ罹患による休業や複数回利用するご利用者の入院、本入所が相次ぎ、欠員補充が追い付かず安定した収入を確保することができなかった。新型コロナ5類への移行を鑑み、2月に絵手紙教室と体操教室の再開を決定し、事業対象者及び要支援2のご利用者の利用回数制限を1回から2回に拡大するなど、柔軟な対応を行った。また、見学希望者の送迎対応も開始し、新たな顧客を獲得するために、居宅事業所への広報活動を行った。この結果、新規事業所から3人の複数回ご利用者を獲得することができた。さらに翌年度から生活機能向上連携加算及びADL維持加算を算定できる準備を整えた。これにより来年度以降の利用実績の回復と安定した事業収入確保への足掛かりとすることことができた。 (イ)居宅介護支援事業においては要介護ご利用者の件数は減少したが、包括からの

要請で受け入れた要支援ご利用者の件数が前年比 1.7 倍に増えており、大きな減収には至っていない。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
通所介護(定員 30 人)	23.5 人	19.7 人	23.5 人	18.8 人
居宅(年間のべ)	1,320 件	1,183 件	1,320 件	1,144 件

# 横浜市簗沢地域ケアプラザ

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況				
1. 令和3年度～令和7年度の5年間、指定管理者として地域住民や関係機関と連携し、簗沢地域ケアプラザを適切に運営する。				
令和4年度は積極的に地域に出向き、地域住民、関係機関等と連携を図りながら 介護保険に関する相談対応及び地域支援に取組んだ。				
2. 委託事業(地域包括支援センター・地域活動交流・生活支援体制整備)においては中区の地域福祉保健計画等に沿って事業を進めていく。				
① 5職種連携を図りながら地域支援に取組んだ。				
② 介護予防支援事業では、区の保健師とともに新たに元気づくりステーションの立上げ支援と元気づくりサポーターの養成を行った。				
③ 地域活動交流事業では、学校や地域の支援者のネットワークを生かし、新たに子どもを対象とした自習室にて子どもの居場所づくりを行った。地区社協の企画のバス旅行については、タクシーの活用による少人数での買い物ツアーを提案し、感染症に配慮しながらも交流の機会を楽しむ事ができたという声を伺う事ができた。				
3. 介護保険事業(通所介護・居宅介護支援)においては、本人とその家族に寄り添い、事業所内及び専門職との連携支援により、選ばれる事業所となり安定運営を目指す。				
① 事業所内連携と丁寧な支援をモットーに、感染症対策を工夫しながらレクリエーションや機能訓練を実施した。				
② 感染症の影響により2日間休業したが利用率を上げる事ができた。				

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3年度		R4年度	
	目標値	実績	目標値	実績
通所介護(定員40人)	30.5人	28.5人	30.5人	29.6人
居宅(年間のべ)	700件	629件	700件	640件

# 横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 各事業の事業内容と支援内容を見直し、利用者満足度の向上を図る。	
(ア) 支援センターに求められる役割・機能について、地域関係機関等との連携の中で意見交換すると共に、国の制度施策の動向とも照らし合わせながら再確認し、全体の方向性を共有した。	
(イ) 目標とする方向性に向けて、現状の各事業の取り組み状況などを一覧に整理し、担当者のみならず担当外職員も確認しやすくした上で、その支援の質について協議・検討する土台を築いた。	
(ウ) ご利用者個々の希望に沿った支援内容の決定や振り返りが標準化できるよう、協議・検討する際の枠組みを一定化し、所内カンファレンスの充実を図った。	
(エ) 感染対策には留意しながらも、全館イベントとして20周年記念祭を行い300人以上の来館者を迎えた。また、可能な限り関係機関ネットワークへの参画、プログラムの再稼働などを徐々に行う中で積極的に声掛けし、初めて支援センターに訪れるという地域の多くの方に周知が行えた。	
2. 職員の資質向上と人材育成を行う。	
(ア) 資質向上を図るため、参考となる外部の研修（障害者権利条約、今後の国施策の動向等）を積極的に受講した。また、区自立支援協議会等の会議に中核的に参画する中で、その取り組みの方向性や具体的な内容について、支援センターとしての考えをプレゼンテーションする機会としても捉え、参加する各職員が積極的に発言し研鑽を積んだ。	
(イ) 日々の申し送りに加え、毎週1回のカンファレンス実施日を設け、皆が同じ手法で支援検討や振り返りを行うこととした。その中で進行や記録などそれぞれの役割を交代で行うことで、支援内容を考える力を伸ばすことに加えて、チームとしての合意形成に至るまでのファシリテーション等の関連技術も学べる日常的な機会として定着できた。	
3. 地域共生社会の実現に向けた地域づくりを進める。「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築」の推進と「地域生活支援拠点機能」の充実強化を図る。	
(ア) 基幹相談支援センター・区役所・生活支援センターの3機関定例会議や、区自立支援協議会のネットワークを活かし、多様な機関に対して啓発活動、研修などを実施した。また、地域の見守り隊に参加し、必要に応じて地域ケアプラザ、基幹相談支援センター、区役所等と協働で訪問等の支援を行い、複合的ニーズを持つ支援に繋がりにくい方への支援にも注力した。	
(イ) 区独自の精神障害者訪問支援強化事業について、今年度より事務局を担いつつ、	

適宜個別支援のフォローも協働して行った。また、本事業をさらに発展させ、地域課題の抽出に繋げていくために、区自立支援協議会の精神部会と連動した仕組みについて、積極的に提案し来年度以降はその中核となって進めていく土台を築いた。

## 2. 稼働実績（令和5年3月31日現在）

事業名	契約数			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
地域移行・地域定着	15 人	15 人	15 人	21 人
計画相談	契約人数	120 人	130 人	100 人
	モニタリング件数	360 件	395 件	480 件
自立生活援助事業	10 人	3 人	5 人	1 人

事業名	R4 年度			
	年間契約者(のべ)	新規契約者	年度末契約中	卒業者
自立生活アシスタント	28 人	12 人	10 人	18 人

# 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

## 1.事業報告

重点目標に対しての達成状況				
1. 地域交流事業の強化及び新たな形を開発する。				
福祉分野以外にも、教育機関・高齢者関係機関と連携を強化した。結果、小学校との交流事業や地域ケアプラザと共に地域の行事に参加するなどの新たな形を構築した。				
2. 精神障害について地域の方々が知ることができるよう普及啓発活動を実施する。				
(ア) 精神保健分野に関するアンケートを実施、回答者にセンター主催の夏祭りで特典付与等の仕組みを考えた。結果、地域住民 168 人に足を運んで頂き、ご利用者と共に楽しい時間を共有しながら精神障害について理解を深める機会となった。				
(イ) 小学校交流事業を通して、ご利用者が講演したり、小学 5 年生がセンターに来館したりと交流を深めた。結果、小学生が精神障害について理解を深める機会となった。				
3. 地域共生社会に向け、地域生活拠点事業・精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムを区役所・基幹相談支援センターと 3 機関と取り組んでいく。				
3 機関で検討を重ね、区づくり事業を活用し、地域への講演活動、行事への参加を通してシステム構築に向けての土台作りを行うことができた。				
4. ご利用者へのサービス向上を目的とした人材育成、資質向上に取り組んでいく。				
コロナ禍の中で、オンラインで参加できる研修が増えたこともあり、市内のみならず全国レベルの研修にも参加した。様々な地域の現状を知る機会となり、意識向上に繋がった。				
5. ピアスタッフの活用、ピアの専門性を周知。				
横浜市ピアスタッフモデル事業検討委員会に参加し、ピアスタッフの雇用、フォローアップ体制を検討した。結果、令和 5 年度ピア導入モデル事業を実施することとなった。				

## 2.稼働実績(令和 5 年 3 月 31 日現在)

事業名	契約数			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
地域移行・地域定着	15 人	15 人	15 人	15 人
計画相談	契約人数	84 人	125 人	115 人
	モニタリング件数	59 件	59 件	65 件
自立生活援助事業	10 人	3 人	5 人	2 人

事業名	R4 年度			
	年間契約者(のべ)	新規契約者	年度末契約中	卒業者
自立生活アシスタント	28 人	5 人	25 人	3 人

# CaféTurtle

## 1.事業報告

重点目標に対しての達成状況			
<p>1. 地域への周知活動の強化。</p> <p>SNS の活用、ポスティング、パンフレット改訂等を行った。結果、常連の方々も増え地域行事への参加依頼を受けたり、店舗を地域団体に貸出す機会が増えたりと、地域の方々に知って頂くことに繋がった。</p> <p>2. 関係機関への周知強化。ご利用者の増加を目指し安定した運営を図る。</p> <p>精神保健分野以外に養護学校や就労支援センター等に再度足を運び周知をした。結果、養護学校の卒業生受入れを学校側から相談を受けるようになり、体験ご利用者の増加に繋がった。それにより、令和 5 年度に、養護学校 2 校と卒業生の受け入れに関する話が進んだ。</p> <p>3. ご利用者の就労機会の充実、顧客満足度の向上を図る。</p> <p>(ア) 自家焙煎珈琲豆の創作以外にも新メニューの考案、自主製品(手芸)の開発を行った。結果、関内駅の地下街に市内の福祉施設と共に出店するなど、ご利用者自ら作成したものが置かれ充実感に繋がった。</p> <p>(イ) 地域の初めての行事に招かれた(第一回大口パン祭り)。1 ブースを任せご利用者と共に出店。多くの地域住民や子供たちと交流できた。大盛況で幕を閉じ、ご利用者には疲労は見られたが、完売した達成感を得ていた。来年も出店したいと意欲的にもなられ、地域交流活動が、ご利用者の満足度向上に繋がった。</p>			

## 2.稼働実績

事業名	稼働数			
	R3 年度		R4 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
就労継続支援 B 型(定員 20 人)			14 人	4.2 人

# 横浜市多機能型拠点こまち

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
1. 重症心身障害児者が地域生活をより安心・安全に過ごせるように、職員(医師・セラピスト等)を増員することで更に福祉・医療サービスの充実と経営の安定を図る。 (ア) 大学病院(小児科)と在宅医(内科)がなごみクリニックと連携し、情報共有することで、地域包括医療ができた。また、金曜日の医師を3人体制にし、臨床指導や施設往診を増やし、クラスター等にも対応することで地域貢献ができた。 (イ) 医師が職員やご利用者との交流時間を増やすことで、相談しやすい環境が作られ、安心感が提供でき、ご利用者の健康状態や個別性の理解を共に深める事ができた。 (ウ) 令和3年度のコロナワクチン接種者は1,161人、令和4年度は519人と減少した。しかし、発熱患者の受け入れ態勢を整え、一般診療を継続することで、1日平均患者数は前年度なみに保つことができた。 (エ) 訪問看護では、地元の小学校に訪問し、医療的ケア児の給食時の注入対応や、特別支援学校への通学支援をすることで、地域への貢献と事業の安定的な収入に繋げる事ができた。 (オ) 訪問リハビリの実績は、セラピストの増員により年度当初1日当たり2.1人だったのを4.8人に増加させることができ、家族の要望に応えられた。 (カ) 個別リハビリでは、排痰ケアを中心に取り組んだことで、食事摂取の難しい方が安全に食べられるようになった。また、肺炎による入院が多かったが、入院者数の減少にも繋げることができた。 (キ) 居宅サービスでは、2人の職員が喀痰吸引第3号研修を取得し、医療的ケア児者のニーズに対応できた。また、介護保険法に基づく介護サービスの導入については、同居家族にニーズ調査を行い、令和5年度より開始できる体制を整えた。 (ク) 児童部門では活動時に姿勢や道具を工夫し、自分の力で達成感を味わえるよう支援した。また、公共交通機関を利用した外出や地域の保育園等との関りを通して、社会との繋がりを感じてもらえるよう取り組むことができた。 (ケ) 生活介護では、重度障害者のスポーツ活動の機会を増やすために、横浜ラポールと共にし、様々な補助具を使用して、今まで体験できなかったラポールでのボーリング大会を6回実施する事ができた。 (コ) 相談支援事業では、強度行動障害支援研修を受講したことで、令和4年11月から対象者の拡大ときめ細やかな対応を強化、家族ニーズに応えることがで	

き、加算算定もできるようになった。

- (サ) 医療型特定短期入所では、医療的ケアの提供だけでなく、日中活動支援に取り組んだ。一人ひとりの活動目標と計画を共有し、実践・評価を行うことで、サービスの質の向上と職員の育成にも繋がった。
- (シ) コロナ感染の影響により、短期入所の減少傾向も変わらず、訪問系サービスのキャンセルも多かった。また、ご利用者の入院なども重なったことで目標達成には至らなかった。
2. 高度な医療的ケアのある重症心身障害児者の看護・介護等に適切に対応できるよう教育システムを見直す。
- (ア) 令和4年度から、プリセプターシップ(マンツーマン)を導入した。採用者16人にプリセプターをつけ、フォローアップ研修を実施し、全職員が新入職員に関心を持ち、共に支え合い、皆で育てるという意識を持つことで、退職者は一人もでなかった。
- (イ) BLS(救命処置)研修については、今年度は更に、事業別にご利用者の個別性に合わせた実践訓練を追加し、一人ひとりが状況に応じた対応策を考えられ、より現場に即した研修となった。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)				備考	
	R3年度		R4年度			
	目標値	稼働数	目標値	稼働数		
診療所	35人	39人	45人	39人		
訪問看護(訪問リハ含む)	10人	7人	10人	10人	通学支援含む	
一般相談	100人	105人	100人	111人	年間実人数	
計画相談・障害児相談	360件	356件	600件	424件	年間モニ件数	
福祉型短期入所(定員5人)	4.5人	4人	4人	4人	開所日の平均	
医療型特定短期・日中一時	12人	11人	13人	10人		
居宅介護・移動・重度訪問	12人	9.2人	20人	15人		
放課後等デイサービス	5人	5人	5人	5人		
生活介護(定員20人)	15人	14人	17人	16人		
福祉有償移動サービス	4人	4人	4人	3人		

# 左近山特別支援学校内放課後等デイサービスたんぽぽ

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況					
1. 重症心身障害児者が地域生活をより安心・安全に過ごせるように、職員(医師・セラピスト等)を増員することで更に福祉・医療サービスの充実と経営の安定を図る。					
(ア)高度な医療的ケアを必要とする児童に対応するため、看護師3人とセラピストを配置し、サービスの充実に繋げた。また、看護師配置・専門的支援(セラピスト)加算により、安定した収益にも繋げることができた。					
(イ)夏休みには外出活動として、こまちの夏祭りに参加するなど、感染予防を徹底して、季節感を感じることや友達との交流を楽しんでもらうことができた。					
(ウ)畠の中まで行くことが難しい児童が多いので、育てている畠の状況をiPadで中継し、成長過程を知ることや収穫の喜びを感じてもらうことができた。					
(エ)ディズニーアトラクションのホーンテッドマンションを活動室で再現し、また、クリスマスシーズンはパレードをリフト車両で再現するなど、多くの刺激を感じて貰えるように活動し、児童の表情や反応の変化に結びつけることができた。					
(オ)学校看護師派遣・通学支援事業においては、複数職員で対応可能な体制を整えた。また、学校との連携による質の高いケアと、安心・安全な学校生活が送れるよう支援ができた。					
2. 高度な医療的ケアのある重症心身障害児者の看護・介護等に適切に対応できるよう教育システムを見直す。(重点目標)					
(ア)こまち同様に、令和4年度から、プリセプターシップを導入した。採用者2人にプリセプターをつけ、フォローアップ研修を実施し、全職員が新入職員に关心を持ち、共に支え合い、皆で育てるという意識を持つことで、退職者は一人も出なかった。					
(イ)BLS(救命処置)研修については、今年度は更に、事業別にご利用者の個別性に合わせた実践訓練を追加し、一人ひとりが状況に応じた対応策を考えられ、より現場に即した研修となった。					

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R3年度		R4年度	
	目標値	稼働数	目標値	稼働数
左近山放課後デイサービス	5人	4.2人	5人	4.7人